

津松阪港地震・津波対策検討会議（第1回） 議事概要

日時：平成23年10月3日 10:00～11:30
場所：三重県教育文化会館 第5会議室

1. 開 会

2. ビデオ上映

「東日本大震災の記録」中部地方整備局港湾空港部編集

3. 会議の主旨

・・・【資料－1】

4. 出席者紹介

【配席図・出席者名簿】

5. 座長挨拶

・

6. 議 事

(1) 港湾における総合的な津波対策のあり方について 【資料－2】

- ・事務局より中部の港湾における地震・津波対策検討について「目的」「検討内容」「検討体制」「検討スケジュール」を説明

(2) 津松阪港の地震・津波対策の現状について ・・・【資料－3】

- ・事務局より説明

①津松阪港における耐震強化岸壁の整備状況を報告

緊急物資輸送は、耐震強化岸壁整備率 67%

②津松阪港における防潮ラインの現況について報告

現在、東海・東南海・南海地震で想定される津波が来襲した場合に防潮ラインを超える恐れはない。

【質疑応答】

- ・津波ハザードマップの整備状況は？《高橋千秋参議院議員》

→三重県では、東海・東南海・南海3連動の津波シミュレーションを実施（津波浸水予測を実施している）

→河川の洪水ハザードマップはほぼ100%作成されているが、津波・高潮については、作成されていたり、されていなかったり。

- ・津波の到達時間等は？《森本哲生衆議院議員》

→伊勢湾の内と外で違う、伊勢湾内は時間がある。

→三重県では、M9を想定し津波を計算中。（10/3公表予定）

- ・東日本大震災での堤防の被災状況はどうか？《森本衆議院議員》

→超えた波の水流で洗掘がされた、引き波は構造として考えていなかった、今後、強化が必要（粘り強い構造）

- ・地震の見直しはされているのか？《高橋参議院議員》
→中央防災会議で検討中であるが時間が掛かっている。
→コンビナート火災も対応（消防船）が重要
→埋立地の護岸の破壊によるタンクへの影響が問題
- ・三重県が新たに行っている津波浸水予測について？《渡邊座長》
→M8.7をM9.0にして行っている、津波は伊勢湾内で数十cm高くなる。（浸水域は広がる）
→避難場所の見直しを進めるため、中央防災会議に先立って行った。各市で津波ハザードマップの見直しをする事になる。

(3) 意見交換

【企業Ⅰ】

- ①基本は人命
- ②ハード的なモノも進めるが、ソフト対策として避難も重要。

【企業Ⅱ】

- ①社内で社員教育を進めている（地震防災マニュアル）
- ②地震等の発生時の対応・対策を進める。
- ③年1回は、火災を含めた避難訓練を実施。

【企業Ⅲ】

- ①ハード面では港に面した門の災害時の対応を変更。（逃げてから最後に閉める→閉めてから裏口から逃げる）
- ②初期の初動を決めている、夜間、昼間、24時間出来るよう考えている。

【三重県】

- ①海岸堤防は伊勢湾台風後に整備され、伊勢湾台風時の高潮を基準に整備。
- ②伊勢湾内は想定津波高に対し、堤防高は満足している。
- ③港に対する対策としては、熊野沿岸の方で陸閘の動力化を行っているが、伊勢湾内は、まだできていない。
- ④海岸堤防の液状化対策は行っているが、一部しか進んでいない。直轄海岸（津松阪港海岸・西南海岸）については、耐震化も含めて整備されている。
- ⑤東日本大震災をうけて、老朽化対策（空洞化・ひびわれ・クラック）を緊急的に対応していく。

【座長】

- ①今回の第1回会議では、港湾や海岸施設の整備状況について、皆様に現状認識をして頂きました。
次回の会議では各企業が取り組んでおられる防災対策や港湾・海岸整備に対する要望等について、ご紹介頂ければと思いますので、宜しくお願い致します。

以 上